

母は僕の食欲を見て、うらやましそうに、僕の顔をじっと見ている。

おばあちゃんは横で下を見ている。

その時だった。

表の玄関の戸が、勢いよくガラリと開いた。

お父ちゃんのくつつひものほどく顔から一言、

「兄ちゃん、うかったわ。」と息切れ気な声が飛び出す。

母もおばあちゃんも、

「あっ」と一言あげ、息を飲む。一瞬、皆、無言。

そして、息をはく時、

「よかった！」と、顔を持ち上げて、喜ぶ。

すると、母は、今、おおばあちゃんに渡した「つくり」を返してもらい、再び、それに箸を入れる。

急に、食欲がわいて来たのだ。

しかし、僕のほうは急になくなった。僕は胸が一杯だった。

おばあちゃんが喜んで胸をなで下ろしている。